

寝汗(盗汗)

患者様情報

来院されるまでの症状

1カ月前に喉が痛くなり、市販薬を数回飲んでから寝汗をかくようになったそうです。一晩に4～5回も着替える程のひどい寝汗で全く熟睡できないと、お困りのようでした。市販薬は寝汗をかくようになってからすぐに飲むのを止めたそうですが、1カ月たった今でも毎晩寝汗をかいているとのことでした。今現在、喉の痛みは治まったものの、声が出しにくく、耳鼻科を受診したら声帯が弱っていると言われ、痰切りのお薬を1週間分処方されて服用中とのことでした。

患者様	70代 女性
初診	2023年 7月
既往症	突発性難聴(5年前)
他の症状	声帯炎、首肩こり

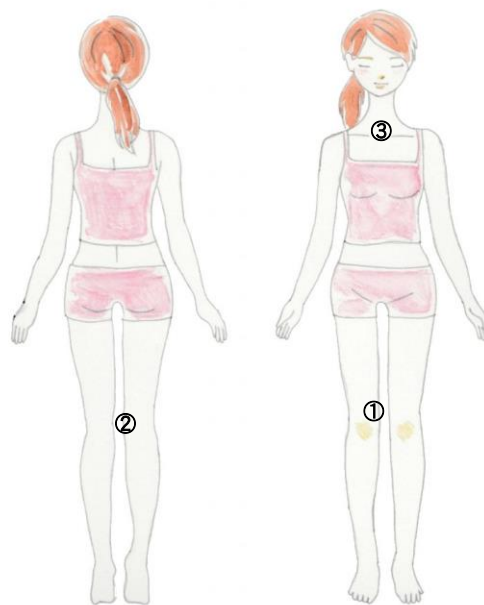
四診と経過

■ 診療（診断と施術）

- ・表情や声に元気がなく、とても疲れている様子でした。
- ・胸鎖乳突筋や脊柱起立筋が硬く張っていて、頸の前側や、背部の皮膚は力なく少し黒ずんでいました。
- ・自律神経の失調から来る交感神経の過緊張により、副交感神経の働きが弱まり、寝ている間の体温調節が上手く出来ずに大量の寝汗をかいてしまっていると判断しました。
- ・乱れてしまった自律神経のバランスを整えることを目的に、弱っている経絡(肝と腎)のツボ(曲泉と陰谷)を使って正気を補う鍼治療をしました。
- ・呼吸筋でもある脊柱起立筋や僧帽筋の緊張が強かったので鍼でしっかりと緩めて、督脈上(背骨の上)の力ない所(大椎、至陽、命門)にお灸を据えました。
- ・前頸部、喉の下(天突)に優しいお灸を据えました。

■ 初診後の経過

- ・治療後は背中の中の硬かった筋肉の緊張が緩み、声も出しやすくなったと仰っていました。
- ・治療した日の夜は寝汗をかくことなく、朝まで続けて8時間も眠れたと喜んでいました。
- ・その後も1～2週間に1度のペースで治療を続けており、声の調子もよく、寝汗は全くかかなくなったそうです。



使用した主要なツボ

- ①右曲泉（キョクセン） ②右陰谷（インコク）
③天突（テントツ）

■ ひとこと添えさせていただきます

寝汗の原因は様々ですが、着替えが必要な程のひどい寝汗が何日も続く場合は、深刻な病気が潜んでいることも考えられる為、一度かかりつけの病院等を受診することをお勧めします。寝汗で安眠できずにいると、体力が消耗し免疫力も低下するため、病気にかかりやすくなってしまいます。早めの鍼灸治療で自律神経の働きを促し、改善していきましょう。お気軽にご相談ください。

